

Adabas for Linux, UNIX and Windows

UNIX でのインストール

バージョン 6.6

2017 年 10 月

このマニュアルは Adabas for Linux, UNIX and Windows バージョン 6.6 およびそれ以降のすべてのリリースに適用されます。

このマニュアルに記載される仕様は変更される可能性があります。変更は以降のリリースノートまたは新しいマニュアルに記述されます。

Copyright © 1987-2017 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA, Inc., Reston, VA, United States of America, and/or their licensors.

The name Software AG, webMethods and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA, Inc. and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Software AG およびその子会社が所有する登録商標および特許の詳細については、<http://documentation.softwareag.com/legal/> を確認してください。

本ソフトウェアの一部にはサードパーティ製製品が含まれています。サードパーティの著作権表示およびライセンス規約については『License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third-Party Products』を参照してください。このドキュメントは製品ドキュメントセットの一部であり、<http://documentation.softwareag.com/legal/> 上、またはライセンス製品のルートインストールディレクトリ内にあります。

本ソフトウェアの利用は、Software AG のライセンス規約に則って行われるものとします。ライセンス規約は製品ドキュメントセット内、<http://documentation.softwareag.com/legal/> 上、またはライセンス製品のルートインストールディレクトリ内にあります。

ドキュメント IDは: **ADAOS-INSTALL-UNIX-66-20200619JA**

目次

前書き	v
1	1
表記規則	2
オンライン情報	2
データ保護	3
2 システム要件	5
サポートされているオペレーティングシステムプラットフォーム	6
ディスクスペースの要件	6
追加のソフトウェア要件	6
Software AG 製品管理者用のユーザーアカウントの追加	6
システムカーネルの制限を増やす	7
Linux でのその他のカーネルパラメータ	9
AIX におけるスレッドスケジューリングモデルの変更	10
3 Adabas とともにインストールされるコンポーネント	11
Adabas	12
Adabas クライアント	12
Java 用 Adabas クライアント（オプション）	12
Adabas Administration Services（オプション）	13
Adabas Manager（オプション）	13
インフラストラクチャ	13
その他の製品	13
4 重要な情報	15
インストール用のユーザー ID	16
管理者ステータス	16
インストールディレクトリ	16
Software AG 環境	17
サイドバイサイドインストール	17
Adabas データディレクトリ	18
インストールのキャンセル	18
5 Adabas のインストール	19
GUI を使用した Adabas のインストール	20
6 インストールの完了	25
最終インストール手順	26
インストールされているバージョンに関する情報	28
Adabas SQL Gateway および Adabas Event Replicator の再インストール	29
他の製品とともに使用するためのインストールの調整	29
Adabas クライアントと s ビットを使用するアプリケーション	29
7 Adabas のアンインストール	31
Adabas のアンインストール	32
8 Software AG Update Manager からの修正プログラムのインストール	33
インストール手順	34
修正プログラムのバージョンの確認	37
修正プログラムのアンインストール	37

9 アップグレードガイド	39
旧バージョンの Adabas からのアップグレード	40
以前の Adabas 6.6 サービスパックからのアップグレード	41
バージョン 6.6 データベースからバージョン 6.3、6.4、または 6.5 への変換	42

前書き

このドキュメントでは、UNIX/Linux プラットフォームでの Adabas 6.6 および Adabas クライアント 6.6 のインストールについて説明します。

以下、「Adabas」という一般用語は、Adabas と Adabas クライアントの両方を表すために使用されます。

Adabas は、Software AG Installer を使用してインストールします。このインストーラは、Software AG Empower の Web サイト (<https://empower.softwareag.com/>) からダウンロードします。

このドキュメントでは、Adabas をインストールするための製品固有の手順について説明します。これは、『Software AG Installer の使用』と併用することを目的としています。このガイドでは、Software AG Installer を使用するためにマシンを準備する方法と、製品をインストールおよびアンインストールする方法について説明します。『Software AG Installer の使用』の最新バージョンは、<https://empower.softwareag.com/> でいつでも入手できます。

このドキュメントは、次の項目で構成されています。

システム要件	サポートされているオペレーティングシステムプラットフォームと前提条件。
Adabas とともにインストールされるコンポーネント	Adabas、Adabas クライアント、Java 用 Adabas クライアント、Adabas Administration Services、および必要なライセンスファイルに関する一般情報。
重要な情報	インストールを開始する前に知っておく必要がある重要な情報。
Adabas のインストール	Software AG Installer を使用して Adabas および Adabas クライアントをインストールする方法。
インストールの完了	インストール後の処理手順。
Adabas のアンインストール	Adabas のアンインストール方法について説明します。
Software AG Update Manager からの修正プログラムのインストール	Software AG Update Manager (SUM) を使用して Adabas の修正プログラムをインストールおよびアンインストールする方法。
アップグレードガイド	以前のバージョンまたは以前のサービスパックからアップグレードする方法。

最新の重要な情報については、Adabas に付属の readme ファイルを参照してください。これは、<https://empower.softwareag.com/> にある Adabas 製品マニュアルに含まれています。

1

■ 表記規則	2
■ オンライン情報	2
■ データ保護	3

表記規則

規則	説明
太字	画面上の要素を表します。
モノスペースフォント	<code>folder.subfolder:service</code> という規則を使用して webMethods Integration Server 上のサービスの保存場所を表します。
大文字	キーボードのキーを表します。同時に押す必要があるキーは、プラス記号 (+) で結んで表記されます。
斜体	独自の状況または環境に固有の値を指定する必要がある変数を表します。本文で最初に出現する新しい用語を表します。
モノスペースフォント	入力する必要があるテキストまたはシステムから表示されるメッセージを表します。Program code.
{ }	選択肢のセットを表します。ここから1つ選択する必要があります。中カッコの内側にある情報のみを入力します。{} 記号は入力しません。
	構文行で相互排他的な2つの選択肢を区切ります。いずれかの選択肢を入力します。 記号は入力しません。
[]	1つ以上のオプションを表します。大カッコの内側にある情報のみを入力します。[] 記号は入力しません。
...	同じ種類の情報を複数回入力できることを示します。情報だけを入力してください。実際のコードに繰り返し記号 (...) を入力しないでください。

オンライン情報

Software AG マニュアルの Web サイト

マニュアルは、Software AG マニュアルの Web サイト (<http://documentation.softwareag.com>) で入手できます。このサイトでは Empower クレデンシャルが必要です。Empower クレデンシャルがない場合は、TECHcommunity Web サイトを使用する必要があります。

Software AG Empower 製品のサポート Web サイト

もしまだ Empower のアカウントをお持ちでないのなら、こちらへ empower@softwareag.com 電子メールにてあなたのお名前、会社名、会社の電子メールアドレスをお書きの上、アカウントを請求してください。

いったんアカウントをお持ちになれば、Empower <https://empower.softwareag.com/> の eService セクションにてサポートインシデントをオンラインで開くことができます。

製品情報は、Software AG Empower 製品のサポート Web サイト (<https://empower.softwareag.com>) で入手できます。

機能および拡張機能に関するリクエストの送信、製品の可用性に関する情報の取得、製品ダウンロードを実行するには、Products に移動します。

修正に関する情報を取得し、早期警告、技術論文、Knowledge Base の記事を読むには、[Knowledge Center](#) に移動します。

もしご質問があれば、こちらのhttps://empower.softwareag.com/public_directory.asp グローバルサポート連絡一覧の、あなたの国の電話番号を選んで、わたくし共へご連絡ください。

Software AG TECHcommunity

マニュアルおよびその他の技術情報は、Software AG TECHcommunity Web サイト (<http://techcommunity.softwareag.com>) で入手できます。以下の操作を実行できます。

- TECHcommunity クレデンシアルを持っている場合は、製品マニュアルにアクセスできます。TECHcommunity クレデンシアルがない場合は、登録し、関心事の領域として [マニュアル] を指定する必要があります。
- 記事、コードサンプル、デモ、チュートリアルにアクセスする。
- Software AG の専門家によって承認されたオンライン掲示板フォーラムを使用して、質問したり、ベストプラクティスを話し合ったり、他の顧客が Software AG のテクノロジーをどのように使用しているかを学んだりすることが可能です。
- オープンスタンダードや Web テクノロジーを取り扱う外部 Web サイトにリンクできます。

データ保護

Software AG 製品は、EU 一般データ保護規則 (GDPR) を尊重した個人データの処理機能を提供します。該当する場合、適切な手順がそれぞれの管理ドキュメントに記載されています。

2 システム要件

■ サポートされているオペレーティングシステムプラットフォーム	6
■ ディスクスペースの要件	6
■ 追加のソフトウェア要件	6
■ Software AG 製品管理者用のユーザーアカウントの追加	6
■ システムカーネルの制限を増やす	7
■ Linux でのその他のカーネルパラメータ	9
■ AIX におけるスレッドスケジューリングモデルの変更	10

サポートされているオペレーティングシステムプラットフォーム

Adabas は、さまざまなオペレーティング環境をサポートしています。Adabas の本リリースのサポートプラットフォームについては、『リリースノート』の「サポートされるプラットフォーム」を参照してください。

ディスクスペースの要件

Adabas（Adabas、Adabas クライアント、Software AG Installer パッケージを含む）には、約 1 GB のハードディスクスペースが必要です。

追加のソフトウェア要件

Adabas のインストールには、追加で次のソフトウェア要件が適用されます。

オペレーティングシステムプラットフォーム	要件
Red Hat Enterprise Linux Server 6 (IBM System z 64 ビット)	ホスト名が正しく設定されていることを確認してください。コマンド <code>hostname</code> または <code>uname -u</code> を発行します。 これらのコマンドが完全修飾ドメイン名 (FQDN) を返す場合は、正しく設定されています。 ただし、 <code>localhost</code> 以外のノード名だけを返す場合は、ファイル <code>/etc/hosts</code> を確認して、ノード名が <code>localhost</code> の別名になっていないことを確認してください。ネットワークを再構成して FQDN をホスト名として設定する必要がある可能性があります。
Red Hat Enterprise Linux Server 6 (x86-64)	
SUSE Linux Enterprise Server 11 (IBM System z 64 ビット)	
SUSE Linux Enterprise Server 11 (x86-64)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 (IBM System z 64 ビット)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 (x86-64)	libstdc++ パッケージがインストールされている必要があります。

Software AG 製品管理者用のユーザーアカウントの追加

ここでは、次のように設定されていることを前提に説明しています。

- Software AG 製品の管理者用ユーザーアカウントは "sag" です。
- Software AG 製品の管理者およびすべてのユーザーが割り当てられるグループは "sag" です。
- ユーザー "sag" のホームディレクトリは `/opt/softwareag` です。

■ Software AG 製品のルートディレクトリは `/opt/softwareag` です。

 **注意:** 別の管理者ユーザーまたはグループ名（あるいはその両方）を使用する場合、Adabas ニュークリアスでも使用される `showipc` は、一部の環境変数が設定された後でのみ機能します。詳細については、『ユーティリティ』ドキュメントの「ADANUC」および『管理マニュアル』の「`showipc`」を参照してください。

➤ **手順 2.1.** これから説明する手順を実行するには、処理内容に適したシステム管理ツール（`smit` など）を使用します。

■ 管理者のアカウントおよびグループの作成

1. Software AG 製品を初めてインストールする場合は、全 Software AG 製品用に 1 つの管理者アカウントおよびグループを作成してください。
2. 使用環境にインストールされているすべての Software AG 製品が属する管理者アカウントを定義します。製品のすべての環境定義ファイルが Bourne シェル用に書き込まれるため、管理者アカウントのログインシェルとして Bourne シェルが必要です。
3. Software AG 製品の管理者およびすべてのユーザーが属するグループを定義します。
4. ユーザー "sag" のログインディレクトリを作成します。

例：

ユーザーアカウントおよびグループアカウントが `/etc` 内の各ファイルに定義されているとします。

システムファイル `/etc/group` 内のエントリの例を次に示します。

```
sag:*:21:sag
```

システムファイル `/etc/passwd` 内のエントリの例を次に示します。

```
sag::100:21:SAG - Product Administrator:/opt/softwareag:/bin/sh
```

システムカーネルの制限を増やす

Adabas では System V リソースを増やす必要があります。コマンド `showipc -s` を使用して、現在の設定を確認できます。以下では、Adabas に必要なリソースについて説明します。IPC リソースを必要とする実行中のプロセスは他にもあります。つまり、システム全体でのリソースの最大数または最大サイズを規定するパラメータには、他のプロセスで必要とされる IPC リソースも加える必要があります。リソースの最大サイズを規定するパラメータについては、他のプロセスで必要とされる IPC リソースを考慮して十分大きな値にしなければなりません。

**注意:**

1. UNIX プラットフォームによっては、これらのパラメータのいくつかが存在しない場合があります。
2. showipc コマンドを実行するには、Adabas をインストールしておく必要があります。

カーネルパラメータ	説明	推奨される最小値
SHMMAX	共有メモリセグメントの最大サイズ (バイト)。	SHMMAX のサイズにより、Adabas バッファプールのサイズおよびアタッチドバッファの数 (LBP および LAB ニュークリアスパラメータ) が制限されます。 すべてのデータベースの最大値： LBP + LWP + (ワーカースレッド数 / 10 + 1) MB LAB LABX 注意: ワーカースレッドの数については、ADANUC パラメータ NT および APU の説明を参照してください。Adabas-to-Adabas レプリケーションを使用する場合は、レプリケーションスレッドの数を追加します (デフォルト: 3 * ターゲットデータベース数)。
SHMMNI	システム全体の共有メモリセグメントの最大数。	データベース数 * 4。
SHMSEG	プロセスごとの共有メモリセグメントの最大数。	4 セグメント。
SEMVMX	セマフォの最大値。	32767
SEMAEM	セマフォの終了時調整値の最大値。	1024
SEMMNI	システム全体のセマフォセットの最大数。	データベース数 * 2
SEMMNS	システム全体のセマフォの最大数。	データベース数 * (2 + NCL)
SEMMNU	システム全体の undo 構造体の最大数。	すべてのデータベース -SUM (2 + NCL) を計算します。
SEMMSL	セマフォセットごとのセマフォの最大数。	このパラメータは、データベースあたりのユーザー数 (NCL パラメータ) を制限します。 このパラメータは、すべてのデータベースで最も大きい NCL 値 (データベース数 + 1) 以上にする必要があります。

カーネルパラメータ	説明	推奨される最小値
MSGMAX	送信できるメッセージの最大バイト数。	64 バイト。
MSGMNB	1つのキュー内でキューイングできる最大バイト数（つまり、そのキュー内の全メッセージの合計）。	すべてのデータベース - NCL パラメータの最大値 * 32 バイトを選択します。
MSGMNI	システム全体のメッセージキューの最大数。	すべてのデータベース - (2 + NCL + (2 か NT/3) の最大) の合計を計算します。
MSGTQL	システム全体のメッセージの最大数。	すべてのデータベース - (32 * NCL) の合計を計算します。

Solaris

Solaris 10 以降では、カーネルパラメータを設定するためのリソース制御機能が提供されています。この機能の詳細については、*Solaris* のマニュアルを参照してください。

Solaris でゾーンを使用しているかどうかにかかわらず、Solaris リソース制御機能に対するカーネルパラメータの変更が必要です。ゾーンを含む構成では、グローバルゾーンでこれらの変更を行います。

カーネルパラメータ	Solaris パラメータ	説明
SHMMAX	max-shm-memory	共有メモリセグメントの最大サイズ（バイト）。
SHMMNI	max-shm-ids	システム全体の共有メモリセグメントの最大数。
SEMMNI	max-sem-ids	システム全体のセマフォセットの最大数。
SEMMSL	max-sem-nsems	セマフォセットごとのセマフォの最大数。
MSGMNB	max-msg-qbytes	1つのキュー内でキューイングできる最大バイト数（つまり、そのキュー内の全メッセージの合計）。
MSGMNI	max-msg-ids	システム全体のメッセージキューの最大数。
MSGTQL	max-msg-messages	システム全体のメッセージの最大数。

Linux でのその他のカーネルパラメータ

Linux システムでは、前述の一般的なカーネルパラメータに加えて、"inotify" ファイルシステムモニタリングメカニズムのカーネルパラメータを構成する必要があります。Adabas クライアントプロセスの数に応じて、*/etc/sysctl.conf* で次のパラメータを設定する必要があります。

■ fs.inotify.max_user_instances

これは、実際のユーザー ID ごとに作成できる inotify インスタンス数の上限を指定します（少なくとも、同時使用データベースの数にクライアントプロセスの数を掛けた値）。

■ **fs.inotify.max_user_watches**

これは、実際のユーザー ID ごとに作成できる監視対象数の上限を指定します（少なくとも、同時使用データベースの数にクライアントプロセスの数を掛けた値）。

詳細については、*/proc/sys/fs/inotify* も参照してください。

AIX におけるスレッドスケジューリングモデルの変更

スレッドスケジューリングモデルの一部を変更することで、Adabas のパフォーマンスを向上させることができます。デフォルトでは、AIX はカーネルスレッドに対するユーザースレッドの割合として 8:1 を使用します。この割合を変更するには、次の 2 つの方法があります。

- 環境変数 `AIXTHREAD_MNRATIO` を設定する方法。この方法では、任意の割合を指定できます。

例：

```
AIXTHREAD_MNRATIO=1:1
export AIXTHREAD_MNRATIO
```

- 環境変数 `AIXTHREAD_SCOPE` を設定する方法。

例：

```
AIXTHREAD_SCOPE=S
export AIXTHREAD_SCOPE
```

この例では、割合が 1:1 になります。

例：

```
AIXTHREAD_SCOPE=P
export AIXTHREAD_SCOPE
```

この例では、割合が M:N になります。

`AIXTHREAD_SCOPE=S` は推奨設定です。この場合、割合は 1:1 になります。

3 Adabas とともにインストールされるコンポーネント

■ Adabas	12
■ Adabas クライアント	12
■ Java 用 Adabas クライアント（オプション）	12
■ Adabas Administration Services（オプション）	13
■ Adabas Manager（オプション）	13
■ インフラストラクチャ	13
■ その他の製品	13

Adabas

Adabas 自体は、データベース管理システム自体のすべてのコンポーネントをカバーします。Adabas には、Adabas クライアント、およびインフラストラクチャサブコンポーネントであるセキュリティライブラリが必要です。

Adabas のインストールを完了するには、「[インストールの完了](#)」セクションの説明に従ってライセンスファイルをアクティブ化する必要があります。

Adabas クライアント

Adabas クライアントは、クライアントアプリケーションから Adabas へのアクセスに必要なすべてのコンポーネントをカバーします。これは、Adabas や Entire Net-Work をはじめとする複数の Software AG 製品で使用されます。

Java 用 Adabas クライアント（オプション）

Java 用 Adabas クライアントは、Java ベースアプリケーション用の Adabas に対するインターフェイスです。この製品は 3 つの個別コンポーネントで構成されています。

- Java ベースの API 自体。
- Adabas Rest Interface。これを使用して、HTTP 要求処理をサポートする任意のプログラミング言語からデータにアクセスできます。
- Adabas Data Designer。これを使用して、Adabas FDT、Natural DDM、または XSD 定義から Java API マップを構成したり、Adabas ファイル内のデータを参照したりできます。

Java 用 Adabas クライアントをインストールした場合は、詳細については、Empower で適切な *Java 用 Adabas* クライアントドキュメントの説明を参照してください。このドキュメントは別途入手できます。

Adabas Administration Services（オプション）

Adabas Administration Services は、Adabas Manager が必要とする通信コンポーネントです。Adabas Manager を使用して Adabas データベースをモニタリングおよび管理する場合は、これをインストールして実行する必要があります。

詳細については、Empower で適切な *Adabas Manager* および *Adabas Administration Services* のドキュメントを参照してください。

Adabas Manager（オプション）

Adabas Manager を使用して、Adabas データベースをインタラクティブにモニタリングおよび管理します。Adabas Manager には、Adabas Communication Client、Adabas Administration Services、および Adabas Directory Server が必要です。詳細については、Empower で適切な *Adabas Manager* ドキュメントを参照してください。

インフラストラクチャ

Adabas、つまり Adabas とともにインストールされるコンポーネントには、Software AG Installer で自動的にインストールされる多くのインフラストラクチャコンポーネントが必要です。例えば、Adabas は Infrastructure Security Libraries を必要とします。これらのライブラリには、Adabas 認証機能の実装に必要な機能が含まれています。

その他の製品

資格情報に応じて、**Adabas Products** ノードにさらにエントリが表示されることがあります（選択または選択解除できます）。必要なインストール手順の詳細については、個々の製品のドキュメントを参照してください。

4 重要な情報

■ インストール用のユーザー ID	16
■ 管理者ステータス	16
■ インストールディレクトリ	16
■ Software AG 環境	17
■ サイドバイサイドインストール	17
■ Adabas データディレクトリ	18
■ インストールのキャンセル	18

インストール用のユーザー ID

Adabas をインストールする際に、Software AG Installer を実行するユーザー ID は 8 文字以内にする必要があります。これより長いユーザー ID を使用すると、エラーメッセージが表示されます。

製品のインストールに使用するユーザー ID には、インストールディレクトリに対する完全な読み取りおよび書き込み権限が必要です。これに加え、ユーザーが拡張セキュリティ特権 (sudo または su 権限) を持っているると便利です。

ユーザー *sag* の使用をお勧めします。詳細については、「*Software AG 製品管理用のユーザーアカウントの追加*」を参照してください。

管理者ステータス

インストール中に **[Sudo]** パネルが表示される場合があります。このパネルに sudo パスワードを入力すると、sudoers 特権が必要なスクリプトをインストーラが実行します。sudoers 特権がない場合は、「*最終インストール手順*」セクションで説明されているように、インストール後にスクリプトを手動で実行できます。

インストールディレクトリ

インストール中に、Software AG 製品のインストール先となるインストールディレクトリを指定するように求められます。デフォルトでは、メインインストールディレクトリの名前は */opt/softwareag* です。

ディレクトリ名にスペースを含めることはできません。詳細については、『*Software AG Installer の使用*』を参照してください。

デフォルトの [スタート] メニューグループは **[Software AG]** です。

Software AG 環境

インストールプロシージャにより、メインインストールディレクトリ内の *bin* ディレクトリに、*sagenv.new* という環境ファイルが生成されます。このスクリプトは、同じメインインストールディレクトリにインストールされている Software AG 製品の実行に必要な、すべての環境変数を作成します。どの製品を実行する場合でも、事前に必ず読み込む必要があります。



注意: バッチスクリプトの自動実行をスケジュールした場合は、通常、スクリプトが開始されたときに Software AG 環境は定義されていません。したがって、スクリプトで Adabas アクティビティを実行する前に、環境ファイルを渡す必要があります。

サイドバイサイドインストール

同じマシンに同じ Adabas バージョンを複数回インストールできます。また、同じマシンに複数の異なるバージョンの Adabas をインストールすることもできます。ただし、各バージョンは別々のディレクトリにインストールする必要があります。既存のバージョンを上書きすることはできません。アンインストールのみ可能です。

例えば、最初のインストールでは `/opt/softwareag/Suite1` を選択し、2 番目のインストールでは `/opt/softwareag/Suite2` を選択します。

複数の Adabas バージョンが同じマシンにインストールされている場合、Adabas を使用する他の Software AG 製品は、特定の Adabas バージョンがインストールされているディレクトリにインストールする必要があります。別の方法として、独自の *sagenv.new* を作成して、異なるライブラリにインストールされている他の製品を適切に設定することもできます。このスクリプトは、例えばログインスクリプトでコールできます。選択したオプションに関係なく、各 Adabas インストールに加えて、Adabas SQL Gateway および Adabas Event Replicator をインストールする必要があります（詳細については、「*Adabas SQL Gateway および Adabas Event Replicator の再インストール*」を参照してください）。

Adabas では、すべての Adabas インストールについて、個別にライセンスを取得する必要があります。Adabas ライセンスは、インストールディレクトリごとにアクティブ化する必要があります。詳細については、「*最終インストール手順*」を参照してください。

Adabas データディレクトリ

Adabas は、環境変数 ADADATADIR によって識別されるディレクトリに、その構成データおよび使用可能なデータベースに関する情報を格納します。特に、Adabas 拡張オペレーションまたは Adabas Manager を使用する場合は、アクセスするすべてのデータベースの記述を ADADATADIR に保存する必要があります。

デフォルトでは、ADADATADIR がインストールディレクトリになります。同じマシンに複数の Adabas バージョンをインストールする場合は、これらのバージョンを異なるディレクトリに配置する必要があるため、複数の ADADATADIR が作成されます。

ただし、使用されるデータベース ID は同じマシン上で一意になっている必要があります。さらに、\$ADADATADIR/etc にあるファイル ADABAS.INI には、マシン上で一意な必要がある設定データが含まれています。そのため、マシン上のすべての Adabas インストールに共通するディレクトリに、すべてのデータベースを配置することをお勧めします。提供されているスクリプトは、ADADATADIR がこのような共通ディレクトリをポイントするように、関連する環境ファイルを修正します（詳細については、「[最終インストール手順](#)」を参照してください）。

- データベース ID は、コンピュータ上で一意になっている必要があります。データベース ID の重複使用を避けるには、定義されたすべてのデータベースを確認できると便利です。
- 典型的な例を示します。すべてのデータベースで使用している旧バージョンの Adabas をインストールしてあるとします。次に、新しいバージョンをインストールした場合、データベースをそのバージョンに変換する必要があります。変換済みのデータベースを確認するには、同じ ADADATADIR を使用する必要があります。

このような理由から、ADADATADIR を変更するスクリプトが用意されています。

インストールのキャンセル

ウィザードを進めていくと、インストーラは必要ないいくつかのファイルを一時ディレクトリに保存します。インストーラをキャンセルした後で、同じマシン上で再開した場合、インストーラはパフォーマンスを向上させるために、インストーラサーバーからファイルを再度ダウンロードせずに、保存されたファイルを使用します。インストールが正常に完了すると、保存されたファイルは削除されます。

インストールが完了する前にキャンセルし、すでにインストールされているファイルを削除する場合は、手動で行う必要があります。詳細については、「[Adabas のアンインストール](#)」を参照してください。

5 Adabas のインストール

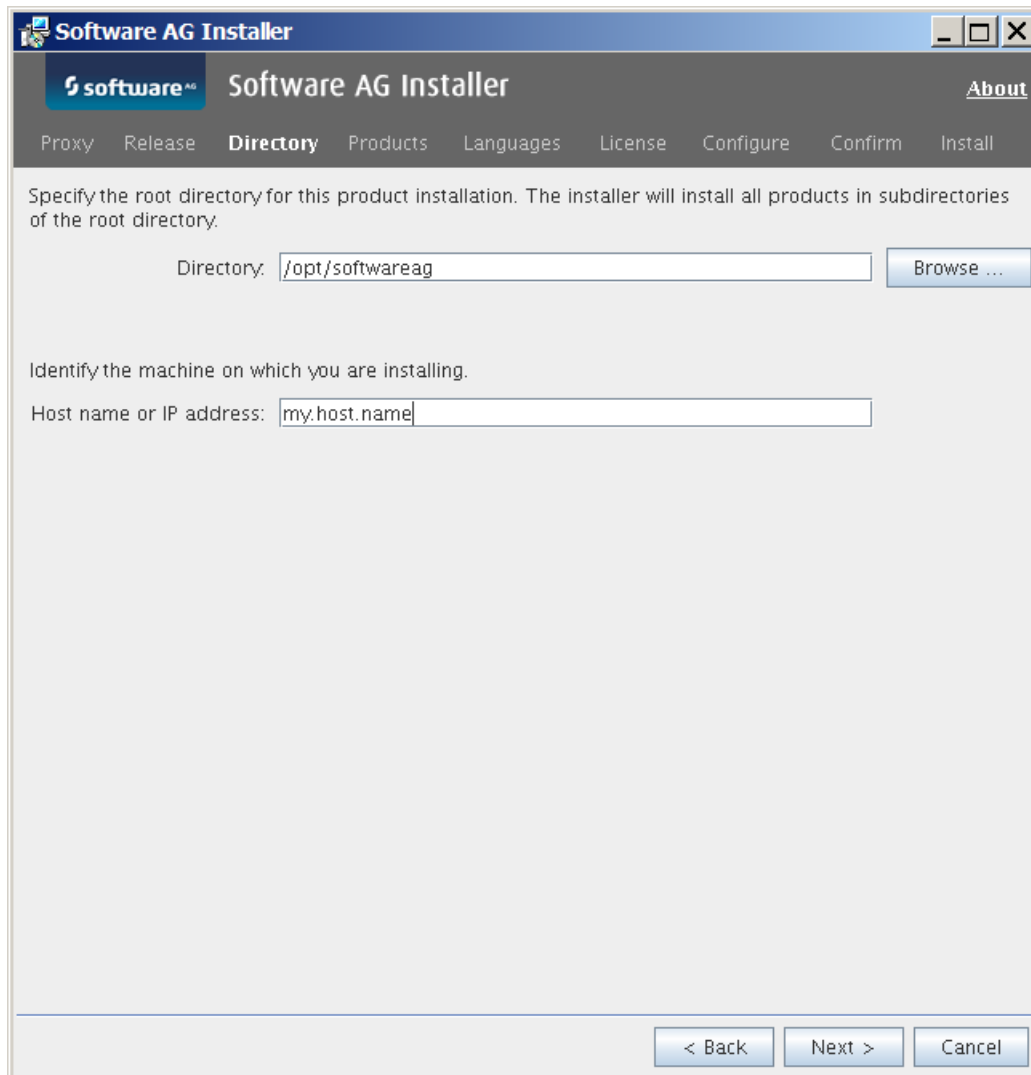
■ GUI を使用した Adabas のインストール	20
----------------------------------	----

GUI を使用した Adabas のインストール

このインストールドキュメントでは、Software AG Installer GUI を使用して、Adabas をターゲットマシンに直接インストールする方法について簡単に説明します。Software AG Installer の詳細については、『*Software AG Installer の使用*』を参照してください。

➤ 手順 5.1. Adabas をインストールするには

- 1 「*Software AG Installer の使用*」の説明に従って Software AG インストーラ GUI を起動します。
- 2 Software AG Installer GUI の最初のページ（いわゆる [Welcome] パネル）が表示されたら、インストールディレクトリを含むパネルが表示されるまで [Next] ボタンを繰り返し押します（このとき『*Software AG Installer の使用*』の説明に従って、表示される各パネルで要求されるすべての情報を指定します）。



- 3 ルートディレクトリとホスト名または IP アドレスを指定します（オプション）。



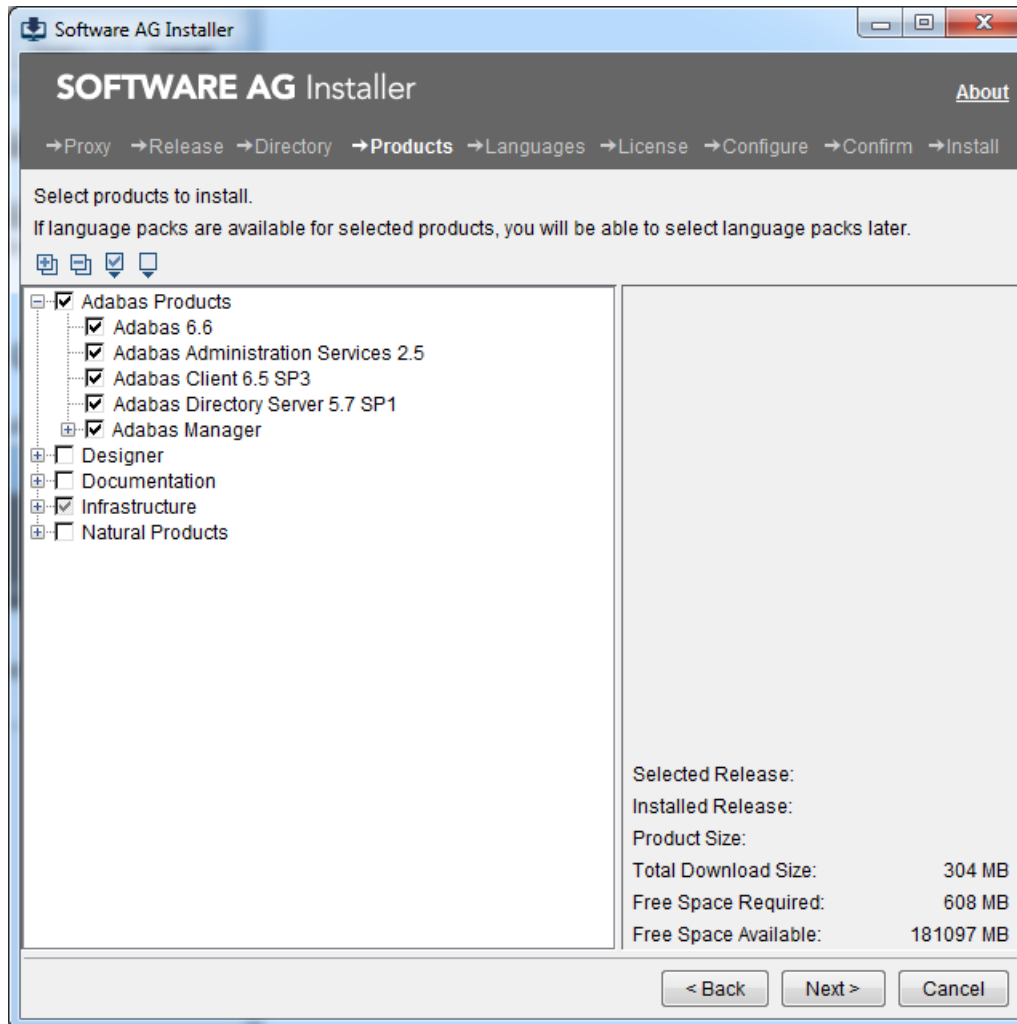
注意: Adabas 6.6 のリリースバージョンをインストールする場合は、提案されるデフォルトディレクトリ `/opt/softwareag` ではなく、サブディレクトリ（例えば `/opt/softwareag/suite2017oct`）を使用することを強くお勧めします。この方法を使用すれば、複数のバージョンの Adabas を同じ階層の異なるディレクトリにインストールできます。

- 4 **[Next]** ボタンを押します。



注意: 次を示すパネルは、製品選択の例です。

製品選択ツリーを含むパネルが表示されます。このツリーには、有効な資格情報を持つ製品、およびインストール対象マシンのオペレーティングシステムにインストールできる製品がリストされます。



 **注意:** 選択したインストールディレクトリにすでにインストールされている製品または製品バージョンは、無効として表示されます。

- 5 Adabas および事前選択された製品コンポーネントをインストールする場合は、**[Adabas Products]** ノードを選択します。

 **注意:**

1. Adabas Manager を Adabas の管理に使用しない場合は、Adabas Administration Services コンポーネントの選択を解除できます。
2. Adabas Administration Services のインストール中に、Adabas Directory Server の URL を指定するように求められます。Adabas Manager を介してデータベースをリモート管理する場合、この URL は Adabas Manager インストールと同じ Adabas Directory Server インスタンスをポイントする必要があります。

または:

選択した製品コンポーネントのリストをカスタマイズする場合は、**「Adabas Products」** ノードを展開し、**「Adabas Products」** を選択解除して、インストールする製品コンポーネントを選択します。

- 6 Adabas クライアントをインストールする場合は、製品選択ツリーで **「Adabas Client」** を選択します。Adabas クライアントは常に Adabas と共にインストールされますが、個別にインストールすることもできます。
- 7 **「Next」** ボタンを押します。
- 8 使用許諾契約を読み、チェックボックスを選択して使用許諾条件に同意し、**「Next」** ボタンを押します。
- 9 `sudo` を使用するかどうかを指定します。

インストールの一部には root 権限が必要です。次の `sudo` パネルで、**「Use sudo, with password」** を選択して有効な `sudo` パスワードを入力するか、**「Do not use sudo or sudo is not available」** を選択してこれらのインストール手順をスキップすることを選択します。

次のパネルの説明に従って、これらのステップを実行する必要があります。どちらの方法で行っても結果は同じになります。



注意: パスワードを指定せずに `sudo` を使用することはできません。



- 10 このインストールの実行時に Adabas 以外の製品をインストールすることを選択した場合は、それらの製品についてインストールの詳細を設定するように求められます。詳細については、各製品のインストールに関する説明を参照してください。
- 11 最後のパネルで、インストールすることを選択した製品と項目のリストを確認します。リストが正しい場合は、**[Next]** ボタンを押してインストールプロセスを開始します。

Software AG Installer で初回インストールを完了した場合は、追加の設定手順が必要です。詳細については、「[インストールの完了](#)」を参照してください。

6 インストールの完了

■ 最終インストール手順	26
■ インストールされているバージョンに関する情報	28
■ Adabas SQL Gateway および Adabas Event Replicator の再インストール	29
■ 他の製品とともに使用するためのインストールの調整	29
■ Adabas クライアントと s ビットを使用するアプリケーション	29

最終インストール手順

このセクションでは、UNIX での Adabas 6.6 のインストール後に完了すべき手順について説明します。

 **注意:** 次の手順で説明するすべてのスクリプトは、Bourne シェルで実行されます。

➤手順 6.1. UNIX で Adabas 6.6 のインストールを完了するには

1. メインインストールディレクトリの bin ディレクトリに変更します。
2. インストール中に `sudo` を使用しなかった場合は、スクリプト `afterInstallAsRoot.sh` を実行してインストールを完了する必要があります。そうしないと、一部の製品が正常に動作しない可能性があります。

■ スクリプト `afterInstallAsRoot.sh` を root 権限で実行します。

3. 次のコマンドを実行して、環境設定を渡します。

```
../sagenv.new
```

4. Adabas ライセンスをアクティブ化します。

1. UNIX マシン上の一時的な場所にライセンスキーをコピーします。
2. メインインストールディレクトリの `Adabas/INSTALL` ディレクトリに変更します。
3. `adalic` コマンドを実行します。次のように入力します。

```
adalic activate license_file
```

ここで、`license_file` はライセンスファイルへの完全修飾パスを表します。

5. デフォルトの Adabas データディレクトリを変更します。

 **注意:**

1. この手順は任意です。
2. この手順を省略すると、Adabas データディレクトリがデフォルトに設定されます。
3. `adaenv` 環境ファイルは、この手順で変更されます。

デフォルトの Adabas データディレクトリは、Adabas インストールディレクトリ（つまり `./Adabas`）です。別の場所を選択する場合：

1. メインインストールディレクトリの `Adabas/INSTALL` ディレクトリに変更します。

2. `change_adadatadir.sh` コマンドを実行します。次のように入力します。

```
change_adadatadir.sh new_location
```

ここで、`new_location` はデータディレクトリの新しい場所への完全修飾パスを表します。

3. 環境設定を渡して変更を有効にします。次のコマンドを実行します。

```
../adaenv
```

または、現在のシェルを閉じて新しいシェルを開き、メインインストールディレクトリの `bin` ディレクトリに変更してから、次のコマンドを実行して環境を渡します。

```
../sagenv.new
```

4. Adabas Administration Services がインストールされている場合は、変更された環境で Adabas Administration Services を再起動します。

- 6 インストールを確認します。



注意: この手順は任意です。

インストールを確認するには、次の操作を選択します。

- デモデータベースの作成
- データベースの起動
- データベースレポートの生成
- データベースの終了

これを行うには、次の手順を実行します。

1. コマンドシェルをオープンします。
2. 環境設定を渡します。
3. デモデータベースの作成
 - `crdemodb` コマンドを実行します。次のように入力します。

```
crdemodb dbid
```

ここで、*dbid* はデータベースのデータベース ID を表します。

4. 次のコマンドを発行して、データベースを起動します。

```
adastart dbid
```

ここで、*dbid* はデータベースのデータベース ID を表します。

adastart の詳細については、『拡張オペレーション』ドキュメントのセクション「データベースの開始：*adastart*」を参照してください。

5. 次のコマンドを発行して、データベースレポートを生成します。

```
adarep dbid=dbid contents
```

ここで、*dbid* はデータベースのデータベース ID を表します。

adarep の詳細については、『ユーティリティ』ドキュメントのセクション「*ADAREP*」を参照してください。

6. 次のコマンドを発行して、データベースを終了します。

```
adastop dbid
```

ここで、*dbid* はデータベースのデータベース ID を表します。

adastop の詳細については、『拡張オペレーション』ドキュメントのセクション「データベースの停止：*adastop*」を参照してください。

インストールされているバージョンに関する情報

Adabas

バージョン番号に関する情報は、次のいずれかの方法で取得できます。

- コマンドシェルをオープンします。環境設定を渡して次の手順を実行します。

```
sagver $ADAPROGDIR/bin/adanuc.bin
```

- コマンドシェルをオープンします。環境設定を渡して次の手順を実行します。

```
cat $ADAPROGDIR/version.txt
```

Adabas クライアント

バージョン番号に関する情報は、次の方法で取得できます。

- コマンドシェルをオープンします。環境設定を渡して次の手順を実行します。

```
sagver $ACLDIR/lib/ libadalnkx.so
```

Adabas SQL Gateway および Adabas Event Replicator の再インストール

Adabas SQL Gateway または Adabas Event Replicator も使用している場合は、これらの製品を再インストールする必要があります。詳細については、関連製品のドキュメントを参照してください。

他の製品とともに使用するためのインストールの調整

他の Software AG 製品も使用している場合は、これらの製品を Adabas をインストールしたディレクトリと同じディレクトリにインストールするか、生成されたスクリプト `sagenv.new` を修正して環境を適切に設定する必要があります。詳細については、「サイドバイサイドインストール」を参照してください。

Adabas クライアントと s ビットを使用するアプリケーション

Adabas クライアントのデフォルトのインストールディレクトリは次のとおりです：
`/opt/softwareag/AdabasClient`。

デフォルトではないディレクトリ（`/opt/softwareag/Suite1/Adabas Client` など）に Adabas クライアントをインストールする場合や、s ビットが設定されているアプリケーションで Adabas インターフェイスを使用する場合は、`/opt/softwareag/` の Adabas クライアントインストールディレクトリの物理的な場所をポイントするシンボリックリンクを作成する必要があります。

➤手順 6.2. 新しいシンボリックリンクを作成するには

- 1 コマンドシェルをオープンします。
- 2 環境設定を渡します。
- 3 次のコマンドを実行してシンボリックリンクを作成します。

```
ln -s<installation_directory>/opt/softwareag/AdabasClient
```

次にその例を示します。

```
ln s /opt/softwareag/Suite1/AdabasClient/opt/softwareag/AdabasClient
```



注意: これらのオペレーションには root 権限が必要です。

7 Adabas のアンインストール

■ Adabas のアンインストール	32
--------------------------	----

Adabas をアンインストールするには、Software AG Uninstaller を使用します。アンインストーラの使用方法の詳細については、『*Software AG Installer の使用*』ガイドを参照してください。

Adabas のアンインストール

Adabas をアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 削除するディレクトリを使用している、すべてのデータベースとプロセスが終了していることを確認します。
2. コマンドシェルを開き、メインインストールディレクトリの *bin* ディレクトリに移動します。
3. スクリプト *beforeUninstallAsRoot.sh* を root 権限で実行します。
4. コマンド `uninstall` を実行します。これにより、Software AG Uninstaller が起動されます。

ユーザーによって作成または変更されたすべてのファイルは削除されません。サービスやデーモンの停止に必要な、*Adabas/INSTALL* ディレクトリ内のスクリプトも削除されません。

8 Software AG Update Manager からの修正プログラムのインストール

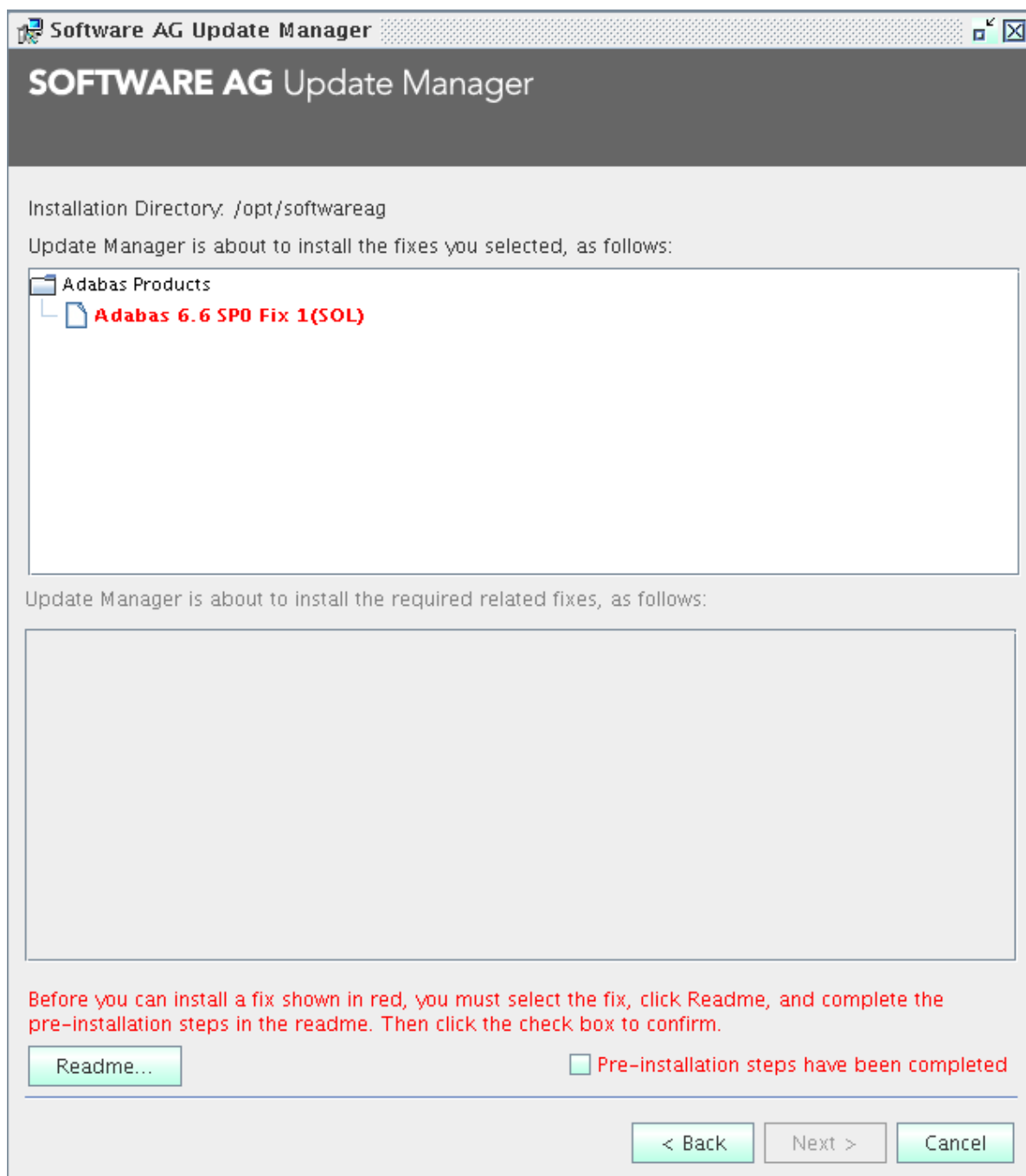
■ インストール手順	34
■ 修正プログラムのバージョンの確認	37
■ 修正プログラムのアンインストール	37

Software AG Update Manager (SUM) を使用し、Adabas 用の修正プログラムをダウンロードしてインストールできます。

インストール手順

》手順 8.1. Software AG Update Manager を使用して修正プログラムをインストールするには

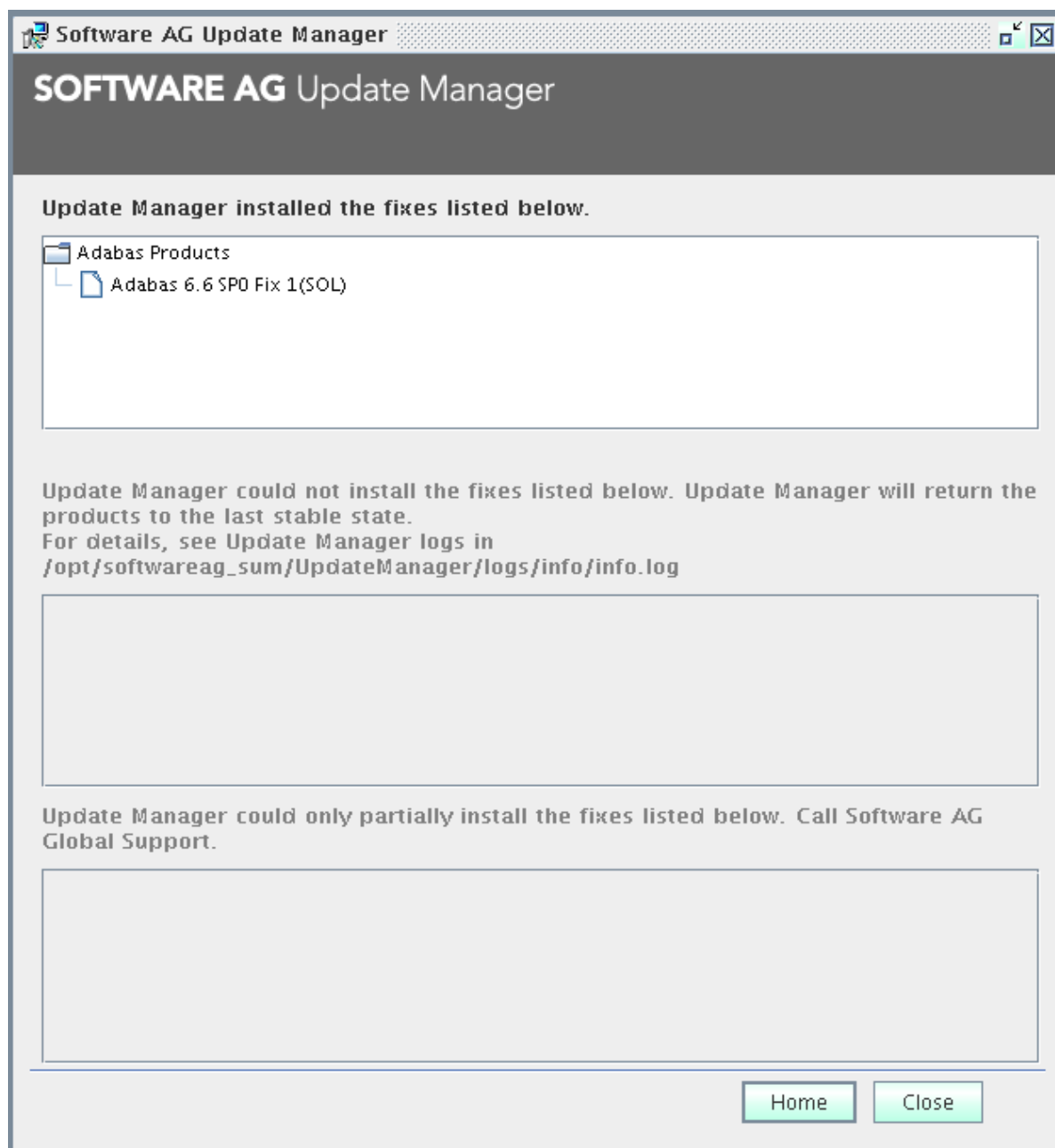
- 1 すべての Adabas プロセスおよび Adabas にアクセスするすべてのアプリケーションが終了していることを確認します。
- 2 Software AG Update Manager を起動し、**[Install fixes from Software AG Empower]** を選択します。
- 3 インストールディレクトリを指定し、Empower 資格情報を指定し、**[Next]** を選択します。
- 4 インストールする修正プログラムを指定し、**[Next]** を選択します。
- 5 readme ファイルに記載されているインストール前の手順を完了し、**[Pre-installation steps have been completed]** チェックボックスをクリックして、この手順を実行したことを確認します。



「Next」を選択して、修正プログラムのインストールを開始します。

 **注意:** Next は、インストール前の手順を実行したことを確認した後にのみ有効になります。

- 修正プログラムが正常にインストールされると、インストールの詳細が Software AG Update Manager に表示されます。「Close」を選択して Update Manager を終了するか、「Home」を選択してメイン画面に戻ります。



修正プログラムのバージョンの確認

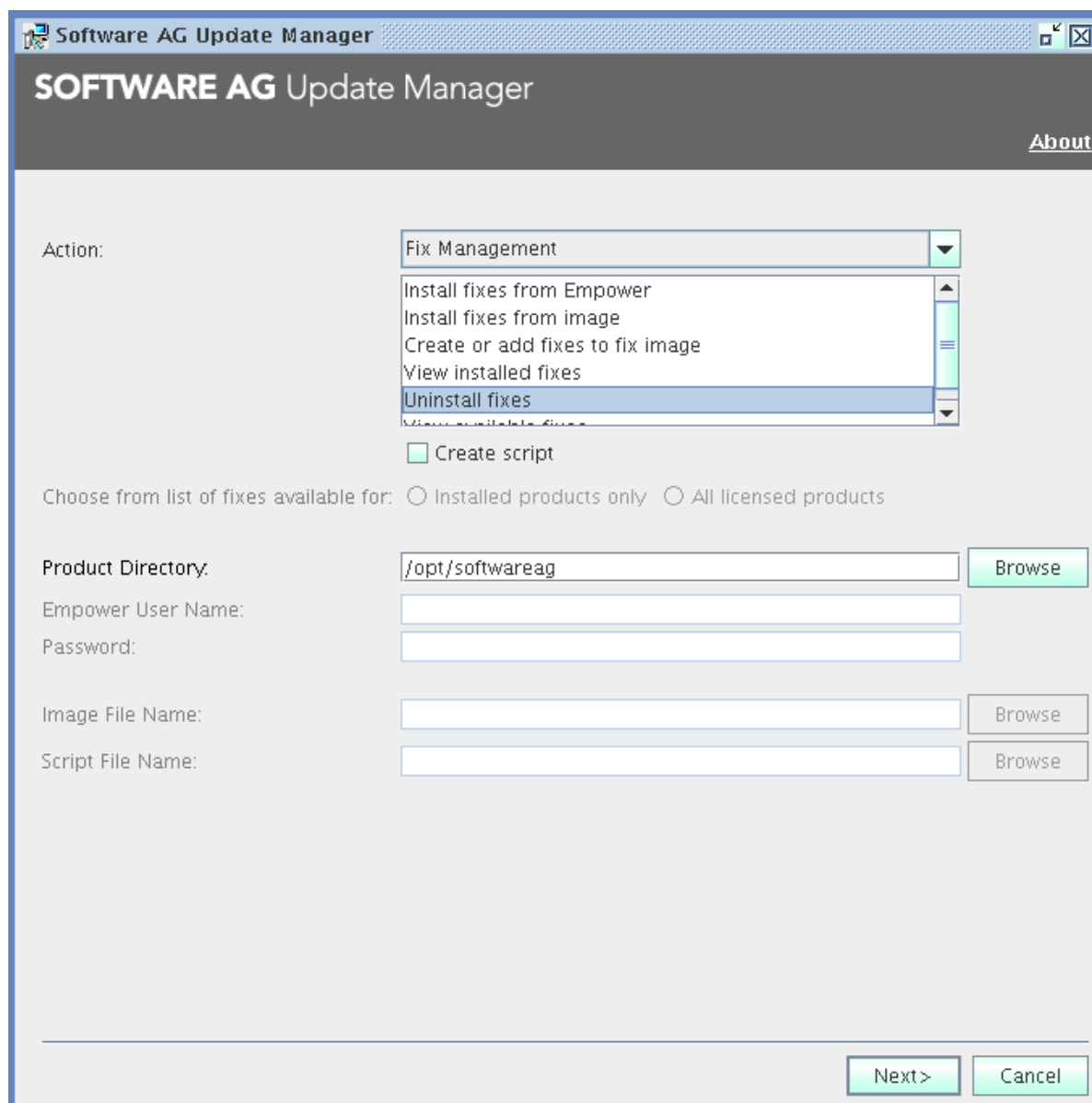
コマンドラインからユーティリティ（例えば ADAREP）を起動して、インストールされている修正プログラムのバージョンを確認できます。修正プログラムのバージョン番号が出力の1行目に表示されます。

修正プログラムのアンインストール

Software AG Update Manager を使用して修正プログラムをアンインストールし、以前の修正プログラムのバージョンに戻すことができます。

▶手順 8.2. Software AG Update Manager を使用して修正プログラムをアンインストールするには

- 1 すべての Adabas プロセスおよび Adabas にアクセスするすべてのアプリケーションが終了していることを確認します。
- 2 Software AG Update Manager を起動し、[**Uninstall fixes**] を選択して、[**Next**] を選択します。
- 3 アンインストールする修正プログラムを指定し、[**Next**] を選択します。



- 4 readme ファイルに記載されているアンインストール前の手順を完了し、**「Pre-uninstallation steps have been completed」** チェックボックスをクリックして、この手順を実行したことを確認します。

「Next」 を選択して、修正プログラムのアンインストールを開始します。



注意: **Next** は、アンインストール前の手順を実行したことを確認した後にのみ有効になります。

修正プログラムが正常にアンインストールされると、アンインストールの詳細が Software AG Update Manager に表示されます。**「Close」** を選択して Update Manager を終了するか、**「Home」** を選択してメイン画面に戻ります。

9 アップグレードガイド

- 旧バージョンの Adabas からのアップグレード 40
- 以前の Adabas 6.6 サービスパックからのアップグレード 41
- バージョン 6.6 データベースからバージョン 6.3、6.4、または 6.5 への変換 42

旧バージョンの Adabas からのアップグレード

このセクションは、古いバージョンの Adabas から Adabas 6.6 にアップグレードするユーザーの支援を目的としています。

- インストール
- Adabas ライセンスおよび ADADATADIR
- 以前のバージョンからバージョン 6.6 へのデータベースの変換

インストール

Adabas 6.6 の主な新機能の 1 つは、製品のインストールが SAG Installer によって実行されることです。SAG Installer では、以前のバージョンとは異なる処理プロシージャが必要になります。

UNIX プラットフォームでは、デフォルトのインストールディレクトリは `/opt/softwareag` です。ただし、同じディレクトリには複数の Adabas バージョンをインストールできないので、個別のサブディレクトリ（`/opt/softwareag/Suite1` など）、または別の場所にインストールすることをお勧めします。既存のバージョンを上書きすることはできません。アンインストールのみ可能です。

詳細については、「重要な情報」を参照し、「Adabas のインストール」の手順に従ってください。

Adabas ライセンスおよび ADADATADIR

Adabas 6.6 では、すべての Adabas インストールが個別にライセンスを取得する必要があります。古いバージョンから Adabas 6.6 にアップグレードしようとしていて、かつ既存のデータベースにアクセスする必要がある場合は、ADADATADIR を変更して、データベースディレクトリが存在するディレクトリをポイントする必要があります。

「インストールの完了」の手順に従って、インストールを完了し、ライセンスを有効にして、デフォルトの ADADATADIR を変更します。

以前のバージョンからバージョン 6.6 へのデータベースの変換

データベースをバージョン 6.1、6.2、6.3、6.4、または 6.5 からバージョン 6.6 にアップグレードする場合は、次の 2 つのオプションを使用できます。

1. ユーティリティ ADABCK または ADAORD を使用してデータを変換します。このオプションを使用するには、次の操作が必要です。
 - a. 新しいバージョン 6.6 のデータベースを作成します。
 - b. ADABCK DUMP または ADAORD EXPORT（古いバージョン）を使用して、古いデータベースをアンロードします。

- c. ADABCK RESTORE または ADAORD IMPORT (バージョン 6.6) を使用して新しいデータベースをロードします。
2. ユーティリティ ADACVT を使用してデータを変換します (詳細については、『ユーティリティマニュアル』を参照してください)。このユーティリティは、既存のデータベースをその場所に変換します。

データベースをバージョン 3 またはバージョン 5 からアップグレードする場合は、まずデータベースをバージョン 6.1、6.2、6.3、6.4、または 6.5 にアップグレード (各バージョンのドキュメントに含まれるリリースノート内の説明を参照) してから、前述の手順に進む必要があります。

ユーティリティ ADACVT、ADABCK、および ADAORD は次の変更を行います。

- ジェネラルコントロールブロック (GCB) の構造レベルが高くなります。
- バージョン 6.1 のデータベースが変換されるときに FDT の構造が変更されます。
- DBxxx.INI ファイルが存在する場合は、データベースは ADABAS.INI ファイルに含まれています。



重要: データベースを変換する前に ADABCK を使用してデータベースのダンプを取得し、データベースを変換してから、ADAVFYFIELD および INDEX 機能を使用してデータベースの整合性を検証することを強くおすすめします。

以前の Adabas 6.6 サービスパックからのアップグレード

このセクションは、以前の Adabas 6.6 サービスパックから現在の Adabas 6.6 バージョンにアップグレードするユーザーの支援を目的としています。

- [インストール](#)
- [Adabas ライセンスおよび ADADATADIR](#)

インストール

同じマシン上に複数バージョンの Adabas をインストールできますが、各バージョンは別々のディレクトリにインストールする必要があります。上書きインストールはできません。そのため、最新のサービスパックをインストールする際には、別々のインストールディレクトリを選択する必要があります。

詳細については、「[重要な情報](#)」を参照し、「[Adabas のインストール](#)」の手順に従ってください。

Adabas ライセンスおよび ADADATADIR

Adabas 6.6 では、すべての Adabas インストールが個別にライセンスを取得する必要があります。

既存のデータベースにアクセスする場合は、ADADATADIR を変更して、データベースディレクトリが存在するディレクトリをポイントする必要があります。

「インストールの完了」の手順に従って、インストールを完了し、ライセンスを有効にして、デフォルトの ADADATADIR を変更します。

バージョン 6.6 データベースからバージョン 6.3、6.4、または 6.5 への変換

バージョン 6.6 データベースを前のバージョンに変換する場合は、Adabas バージョン 6.6 で導入された新機能を使用していなかったことを条件に、2つの方法から選択できます。

ユーティリティ ADACVTを使用して、データベースを以前のバージョンに変換します。変換はインプレースで行われます。

別の方法として、ADABCKを使用してデータベースを変換することもできます。これを実現するには、ADABCK バージョン 6.6 を使用してバックアップを作成し、適切なバージョンの ADABCK を使用してデータベースをリストアします。

照合ディスクリプタを使用していた場合は、注意が必要です。ICU バージョン 5.4 で作成された照合ディスクリプタは、Adabas バージョン 6.3 および Adabas バージョン 6.4 では正しく処理されないため、これらのディスクリプタを再インポートする必要があります。